

# 新・水産業振興指針を策定！

～今こそ誇り高い遺伝子の覚醒を～



高知市丸の内  
高知県海洋局  
久保田寿一  
発行人 海洋企画課  
編集人 海無料  
編定 価

今までも度々ご紹介してきましたが、本県水産業を取り巻く状況は、右肩下がりの厳しい状況に歯止めがかからない一方、社会環境や国際環境 あるいは消費者の意識なども大きく変化しています。

本県の水産業や漁村が、これからの新しい時代に対応し、これらの厳しい状況を打開していくためには、関係者が目指すビジョンを共有し、取り組みのベクトルを揃える必要があります。

今回は、先月策定された本県の水産業振興の基本方向を示した「新・水産業振興指針」について、策定過程で交わされた審議会での激論の様子など、少し違った角度からご紹介してみます。

## ■新・指針の概要

「新・指針」は、向こう6年を見据え、本県の水産業あるいは漁村が生き残るためには、今までの上持っている経営資源や取り組みを重点化することを基本とし、その重点化の方向を

- ▼沿岸漁業中心へ
- ▼生産から流通、販売へ
- ▼ハードからソフトへ

として、取り組みを展開していくこととしています。また、具体的な取り組みのプ

## 新・水産業振興指針



▼県1漁協構想の実現  
▼新たな流通・販売への挑戦  
を全県レベルで最優先する取り組みとして設定するとともに、県内を8つの地域に分け、それぞれ優先して取り組み具体的な目標も設けています。

## ■口角泡を...

指針の策定は、漁業団体の長、学識経験者、流通業界、消費者の代表など16名で構成する漁業基本対策審議会での議論を中心に進められました。

通常、こういった審議会では、スムーズな議論が進んでいくことが多いのですが、新指針を審議した本審議会では、議論が白熱するのと度々で、内容の濃い、真剣な議論が戦わされました。以下、主立った議論を紹介

# 漁協合併を推進しましょう

- 購買は漁協を利用しましょう
- 預金、公共料金は信漁連へ

## ■食育に関して

最近の学校給食で骨なしの魚が求められているとの事例に対して、「そんな子供を育ててどうする？骨が刺さらない食べ方を教えることこそ真の食育だ！」との意見が出されました。



審議会の議論により、食育の重要性も新・指針に盛り込んだ。

## ■市町村・漁協の意識

市町村と漁協からの新指針案への提案や意見が少なくないことに対して、「関心が少ないとはどういうことだ！危機感を感じない原因がどこにあるかにまで踏み込むべきだ！」といった意見もありました。

## ■指針の骨格

事務局提示の新・指針案の基本骨格、方向性に対して、「高知ならではの独自色をもっと打ち出すべきだ！事務局案のように他県と同じような、ごく平均的で、小さくまとめたものではダメだ！」といった辛辣な意見もいただきました。

## ■漁業者は？

「こういった議論の中で、「漁業者は本当にやる気があるのか？」という点も議論の主題となりました。

農業の分野では、地産地消や食育の普及といった時流を捉え、自ら作った物を売る「取り組み」や、グリーンツーリズムを取り込む民泊などの取り組みが大きく広がっています。しかし、水産の分野ではこういった取り組みの動きが少ないといった意見でした。



各地で芽が出つつある、自ら売る取り組みの強化を最優先に位置付けた。

## ■誇り高い遺伝子

要約版の知事挨拶にも書かれているように、古より続く土佐の漁師の気骨、バイタリティーなどの遺伝子は現在の漁業者にも引き継がれています。今こそ、関係者がベクトルを揃えて自ら取り組むことで、審議会の認識を覆すような、第2の中浜万次郎が現れてくれることを期待しています。

## 漁業経営のことなら、今すぐお電話を！

専門アドバイザーが、漁業経営、流通改善について無料でご相談に応じます。まずはお電話を！



- 漁業経営指導協会 tel 088-825-3980
- 上原アドバイザー tel 090-1570-4904

## 「行政の計画」

古今東西、行政が作る計画や指針の最大の課題は、いかに読んでもらい理解してもらえるかという点に尽きる。確かに現場から見れば上等な文句と理想像が並び、浮世離れしたものと感じるかも知れない。しかし、現場での実践にこそ大局的な物の見方が不可欠であり、近視眼的な思考で物事を見誤る例は数多い。まして理念や理想を語らずして共感を生まれないと信じる。

新・指針要約版のイメージキャラクターには、中浜万次郎を起用

以下、主立った議論を紹介

今こそ、関係者がベクトルを揃えて自ら取り組むことで、審議会の認識を覆すような、第2の中浜万次郎が現れてくれることを期待しています。

【編集後記】  
甘いお父さんのせい、立派な甘えん坊に育ってきた息子。これではいけない！と休みの公園の遊具やサッカーで鍛えるもの、ちょっと歩いたらすぐに「もう歩けん。だっこ〜」しかし、おばあちゃん曰く「小さい時のお父さんと同じやね」